

経 済 動 向

国 内 の 動 き

● 経常黒字 1.6%減

大蔵省が発表した94年の国際収支によると、経常黒字は前年比1.6%減の1293億3300万ドルとなり、4年ぶりに前年を下回った。輸入額が13.5%増と4年ぶりに2ケタの伸び率を記録したのを受けて貿易黒字の伸び率が鈍化したほか、海外旅行者の急増などで貿易外赤字が拡大したのが寄与した。円表示の経常黒字も2年連続で減少した。国内景気の

回復や低価格品志向を背景に輸入の増加が今後とも見込めることから、大蔵省は「経常黒字はドル表示でも縮小傾向にある」と判断している。

円表示の経常黒字は前年比9.5%減、貿易黒字は5.3%減で、ともに2年続けて前年を下回った。
(2月9日付 日経)

● 産業用大口電力需要 8か月連続でプラス

電気事業連合会が発表した1月の産業用大口電力需要(電力10社計)は、前年同月比4.3%増の198億100万キロワット時で、8か月連続のプラスとなった。景気の緩やかな回復を受け、機械や鉄鋼、化学などの分野で工場の操業率が上がっているのを反映している。一方で紙・パルプ、繊維など一部の素材産業向けは、前年実績を下回った。業種ご

との回復状況に格差が生じている結果、地方経済の明暗も分かれている様子が読み取れる。電力会社別では東北電力、中国電力などが高い伸び率を維持している。東北は自動車と半導体、中国も自動車のほか化学業界などが牽引役となっている。逆に素材型産業中心の地域(四国電力、北海道電力)は、伸びが鈍くなっている。(2月22日付 日経)

● 企業の1人当たり福利厚生費負担 月8万円超す

年金の保険料や住宅補助などの企業の福利厚生費が、94年度は従業員1人1か月当たり8万円を超えることが確実にになった。日経連がまとめた調査によると、93年度の企業従業員1人1か月当たりの福利厚生費は7万9543円で、昨年11月からの厚生年金保険料の引き上げ分(1人1か月当たり千円強)を加えると、8万円の大台に初めて乗ることに

なる。企業に業務付けられている公的部分の増加に加え、住宅費補助などの負担が不況下にもかかわらず増えているため、一律負担の現行福利のあり方を見直すべきだとの声も出ている。
(2月24日付 日経)

県 内 の 動 き

● 茨城県で最長 北浦大橋

北浦を挟んで大野村と麻生町にかかる北浦大橋が供用を開始する。同大橋は長さ1,295.8メートルで県内最長。大橋の開通で、北浦で交通が妨げられていた両岸地域が一体化し、人・物の相互交流が促進される。

この橋は一般県道荒井麻生線に位置する。幅員は9.75メートルで2車線と片側歩道からなる。橋の中央部分は、か

まぼこ型の「ランガー桁(けた)」とするなど景観にも配慮した。

県は76年度から同大橋の測量・設計を始め、87年度に本格着工した。総事業費は約130億6000万円。
(2月7日付 日経)

● 水戸市が観光テコ入れ

水戸市は観光地としての魅力を高めるため、95年度に市内の新たな観光名所として「新水戸八景」を選定、これを踏まえて旅行者の細かなニーズにこたえる複数の目的別観光ルートを設定する。新八景は市民からの公募で決める予定で、新ルートの設定などにより、春の「梅まつり」に集中する観光需要を通年型に拡大したいとしている。

市商工観光課によると、同市を訪れる観光客は年間約330万~340万人の横ばい状態で、ほとんどが梅まつりの時期に集中している。また宿泊客が全体の1割にとどまるなど、通過型・日帰り型観光地に終わっているなどの問題もある。市は新八景などを新観光資源とし、通年型観光地をめざす。(2月4日付 日経)